

2025年度 入試問題分析シート

京都大学

前期日程

科目	数学(文系)
----	--------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

総論

2024年度は難化したが、2025年度も同様のレベルであった。確実に完答できる問題は①問1、④だけで3桁得点を稼ぐのは厳しいセットであった。①問2は整式として割り切れると整数として割り切れるの違いが分かっていない学生も多かったのではないかと。②は未知数を設定し、それらを含む連立方程式を立式するところまではできるだろうが、文字が6つも現れその先何をすればよいのか途方に暮れたのではないかと。問題文に含まれる「ある」という意味が分かっていないのではないかとと思われる。③では直接求めることができない n が絡む確率だから漸化式を立式しようとしたと思うが、確率の設定が色々ある分迷ったかもしれない。立式さえできれば完答も可能であろうから、これで差がついたとも言える。時間をかけてもよいので④はしっかり計算を合わせたい。計算問題なので計算ミスしてしまうと合格点まで到達するのは厳しい。⑤は結局通る定点を発見するだけでよいが、計算して答えを導くタイプの問題より難易度が高い。解答を見るとあっさりしているが、それを天下り的に見つけるのが厳しかったのではないかと。

特記事項・トピックス

①が小問分けされていた。論証は①問1と④(1)と⑤であったが、①はほとんど計算問題で論証の要素はなかった。例年場合分けを行う問題が含まれるが、④のグラフをかくときに x の正負を場合分けする程度で本格的なものはなかった。最近の京大は年度を用いることが多いが、今年も同様に出题された。

合格への学習対策

例年確率、微分積分、図形は頻出分野である。誘導のない問題が多いのが京大の特徴であるので、普段問題集で学習するときは誘導の意味・目的を感じることが大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
① 問1	記述	II	指数・対数	指数を含む等式の対数を取り、対数計算を行って等式の証明を行う。	易
問2	記述	A	整数	分数式が整数値をとる自然数を求める。	やや難
②	記述	II	恒等式	整式を設定し係数比較を行う。連立方程式が解をもつ条件を求める。	やや難
③	記述	A、B	確率、漸化式	n 桁の整数が6の倍数になる確率を漸化式を利用して求める。	難
④	記述	II	微分・積分	絶対値を含むグラフの接線がただ1つである証明と領域の面積を求める。	標準
⑤	記述	C	空間ベクトル	平面が媒介変数によらず常に通る定点を見つける。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。